

辰巳会だより

本部 秋季例会

平成二十三年十月十八日(火曜日) 正午より
於 神戸メリケンパークオリエンタルホテル

「渚」の間

秋晴れのもと、観光船の出入りするメリケンパーク、海の向い側には観光スポットにもなっている神戸ハーバーランドを眺められる本日の会場に全員が出席しての開催になる。

定刻、正午に開会、先ず辰巳会に初めての出席になられる高知県の西森文明さんの紹介がありました。このあと矢倉慎吾さんのご発声で乾杯をし、会食が始まる。

食事が進み、そろそろスピーチをしていただく時刻になり、先ず高知県職員西森さんは仁淀川町に駐在し金子直吉翁の偉業を広める活動をされているお話でした。

安東幹事長がご登壇、生活時評また社会政治時評を面白可笑しく話され、笑いが起き宴を一層盛り立てられました。次に、忙しくご活躍されています玉岡かおるさんは、鈴木商店に関連した活動をしている西森さんを辰巳会への出席を紹介された経緯を話されました。久しぶ

金子直吉さんの弟楠馬さんのお孫さんにあたる金子直伝さんが高知市内でご健在であり面会し墓所を参拝しました。二〇〇九年十月に生誕地の木野川町で「金子直吉翁の偉業を称える集い」を開き、町内の小学校の皆さんとも直吉翁の勉強会をやりました。県内でこの二年間ほどいろいろなところで講演をやっていきます。講演をしていただきました高知の吉原さん、そして所属しているロータリークラブが中心になって金子家の墓所である高知市筆山に顕彰碑建立され十一月に竣工と聞いています。

玉岡かおる様

三月十一日の東日本大震災が起き、歴史を勉強していることの証明は必ず過去の中に同じことがあり、「お家さん」の作品の中にも関東大震災が起きた時に鈴木商店の動きも、この度の震災で「がんばれ日本、私にできることは何かないか」と日本中が動いています。実は同じ事を百年前に鈴木商店がやっています。神戸港にある木材を先ず東京の街の復興に役立てることを金子直吉さんの号令のもとに東京へ送ったと言う事実があります。そのあと、復興のために時の政府が震災手形の失効猶予があり、まさに今と同じ状況があったことは教えられた気がします。

鈴木商店を書かせてもらい、更に大きくなろうと、小説を通じて新しい日本にメッセージを送り、もっと上むきのが出来るのではないかと、教えられたのもこの辰巳会ではないかとの思いです。

大塚 融様

一族に鈴木商店にかかわっていないながら先祖のことが分からなくなっ

りの出席になる月岡定康さんは相生に伝わる伝説を三年がかりでお芝居にすることが出来たこと、伝説は街を開く扉である。毎例会では明治以降の人物史をお話し下さる大塚融さんは高知出身の鍋島高明さんから高知新聞に金子直吉の連載をするについて、金子直吉、鈴木商店に関する問い合わせの内容を披露されました。また、辰巳会名簿上で不明になっている加久間岩次郎氏の子孫の話が出ました。

本日の例会は鈴木商店が成した様々な偉功の話聞かせていただき、予定の時間があつと言う間に到来しました。

■スピーチ

西森文明様

高知県産業振興推進部地域づくり支援課(仁淀川町駐在)

仁淀川町、金子直吉さんの生まれた旧吾川村は険しい山々があり清流の川で知られている町です。鈴木商店で同町出身の金子直吉さんの活躍を地元高知の人々に広く知ってもらいたい、そして頑張ってもらいたい思いで活動しています。

坂本竜馬が暗殺された前年の一八六六年に金子直吉さんが生まれています。坂本竜馬が世界の海援隊として成せなかったことを鈴木商店の中で直吉さんが世界貿易を成しえたことに、どうして出来たのかの関心と誇りと尊敬の念を持っています。

ていることが多くなっている。この世界恐慌の中で鈴木商店の研究はものすごく重要に思う。地元神戸大学は桂先生以来、本格的研究者がいないです。大学に限らずチームを組んであらゆる、例えば経営面、財務金融関係を研究しておかないと日本における鈴木商店の位置づけの意味合いを強調すべきであろう。恐慌の中で鈴木商店がとったことが現在の日本経済にどう役立つかの後押しが残念ながらありません。特に神戸に育って欲しい。…なんとか鈴木商店の研究が早急にきちんとした体制が本格的になってほしい。



平成二十三年度
本部秋季例会御出席者名簿
(順不同敬称略)

- | | |
|-------|--------|
| 安東 浄 | 矢倉 慎吾 |
| 池田 泰雄 | 柳田 辰巳 |
| 今村 三郎 | 飯田 文雄 |
| 扇谷 睦 | 王鞍 延子 |
| 落合 滋 | 大塚 融 |
| 貴答 恵子 | 井上 常子 |
| 楠瀬 正明 | 玉岡 かおる |
| 東條 佳子 | 西森 文明 |
| 高畑 美紀 | (事務局) |
| 月岡 定康 | 金野 和夫 |
| 中村 裕 | 貴答 祥子 |
| 藤野 欽司 | 以上二十三名 |
| 松下 重男 | |

東京支部 新年例会

平成二十三年一月二十日（木曜日）
於 東京会館・レストランプルニエ

最小不幸社会、平成の開国など高いヴィジョンを掲げて登場した菅内閣への支持が一向に盛り上がらないのを象徴するかのようになり、年末から新年にかけて日本全土は厳しい寒波に襲われました。そんな中で、東京地方は幸い晴天の日が多く、例会当日の一月二十日もよいお天気に恵まれました。

開会のご挨拶として支部長の荒木正雄様が「ユーロ圏で財政危機が発生、為替が混乱し、円高が進んでいる。また、中国が尖閣問題はじめいろいろのところで強い姿勢を示しており、日本にとって多難な年となろう。鈴木関連の各社はさぞご苦労の多いことと思うが、どうか堅実な発展を祈りたい。今年も皆様のご協力をお願いします」など述べられた。続いて急用のため欠席された幹事長の安東浄様よりの伝言として、事務局から「例会この新年会でお配りしている会報が今年は遅れているが、これは五十周年記念の特集号として盛り沢山な内容となっているため、しばしお待ちいただきたい」と報告があった。池田宗吉様から「今年も皆さん体にご注意の上、大いに楽しみましょう」と乾杯のご発声があり、会食となりました。

二人の方が初めてのご参加で、次のようなお話がありました。まず、西川泰様からは帝人一筋で勤め上げられたこと、その最後の

の席で高畑誠一、永井幸太郎のご両氏のことについてお話されることになっていると報告された。

歓談が続く中、帝人出身で先にノーベル化学賞を受賞された根岸英一氏が帝人のフェローとして今後同社の開発関連に携われることになったことなどが話題となりました。

最後に双日総研社長の多田幸雄様が次のようなお話をされました。

「ある会合で漆器製造の老舗の社長の話を聞く機会があった。この会社は伊勢神宮の式年遷宮に漆器の献上を続けてきており、社長自身が二〇一五年には四回目の献上に参加されるという。式年は二十一年一度なので、その会社の歴史の長さに驚くが、実は日本にはこのような匠の継承の例は多い。変わらないものがある一方で変わるものも多い。二十年前の世界を振り返ると、ソ連が崩壊し米国が世界唯一の超大国となった。そして湾岸戦争を始めた。その頃、日本は国際競争力、ODA拠出金で世界第一位であった。ニューヨークのロックフェラーセンターまでも買収した。今や米国の威信は崩れつつあり、日本のランキングは下がる一方である。来年は米、仏、露、中などの大国で指導者の選挙が予定されており、パーフェクトストーム（激動）の年といわれる。世界の人口がはじめて七十億を突破する年でもある。今年はその準備の年となるが、ある調査機関によると今年の危険度の第一位はGゼロ、つまり米国の国力が低下したことにより、G8やG20などサミットで強い指導力を発揮できる国がなくなることによる混乱であるという。確かに新しい時代に入っており、そこで求められるのは一層のリスクチェックの能力である。」

一同このお話を興味深く聞こううちに、丁度予定の時間となり、記念の写真を撮ってもらって解散となりました。

十年ほどは秘書室勤務で辰巳会にも関わりがあったこと、そしてお母上の明子様は百歳を越された今もお元気に過ごされているが、ごく最近、大事をとって西荻窪にある介護施設に入れ、その人気者になっていらつしやることでした。続いて武岡豊彦様からはご高齢のお父上の輝彦様に同伴して今後でもできるだけだけ出席したいこと、お父上が創られた会社の二代目として事業の発展に忙しい毎日であることなどお話になりました。

久しぶりにご出席の松本一郎様からは縁があつて外資系の会社に転職され、専門分野であるリスクマネジメントの知識を生かして頑張っていることご挨拶がありました。また、事務局から本日ご欠席の元NHKの大塚融様のメッセージとして、近く大阪で講演の機会があり、そ



平成二十三年度
東京支部新年例会御出席者名簿
(順不同・敬称略)

住田 正二	武岡 輝彦
熊本 昌弘	武岡 長男
土屋 武彦	西川 泰
池田 宗吉	多田 幸雄
荒木 正雄	松本 一郎
愛敬 慶成	松本 幸夫
木村 隆昭	神子 浩二
速水 きみ	瀬下 猛
森 美子	荒木 義弘

東京支部 春の例会

平成二十三年六月二日（木曜日）
於 帝国ホテル内・なだ万

例年より早い入梅となった六月二日、大きく季節が逆戻りしたような肌寒さを感じる小雨の中、東京支部の春の例会が開催された。お仕事の関係で途中退席される方がおられたため、まず記念写真を撮ってもらった後、着席して開会となった。

支部長の荒木正雄様のご挨拶。「去る三月十一日、東日本大震災が未曾有の災害をもたらし、その復旧、復興には長い時間がかかる。先の阪神大震災で鈴木関連の企業も大きな被害を受けたばかりというのに。鈴木関連の会社とそこに働く方々に早く明るさが戻ることを祈るばかりである。関東東海においては、いつまた大震災が起ころうと思議ではないと専門家はいう。世界をみても米国、EUともに悪い材料が出てきている。こんな時は心の持ちようが大切で、お互い物事をできるだけ明るく考えるようにしたいものだ。」

次いで幹事長の安東浄様からの本部報告。「再来年は金子直吉翁の七十回忌の年となるので、鈴木商店の記憶を新たにする意味で記念の催しを考えたい。それと辰巳会の若いメンバーを増やす対策が必要だ。」続いて池田宗吉様のご発声で一同乾杯し、会食が始まった。

初参加の方がお二人おられ、ご挨拶があった。まず、日本製粉常務執行役員の宮本正樹様。「澤田社長兼会長の代

理として出席。日本製粉は一時鈴木傘下にあったが、今は三井系列になっている。澤田社長兼会長はいつも辰巳会を楽しみにしている。自身については日商岩井の食料部門に勤務、ニューヨークでのソフト部門長を最後に転職し、海外部門を担当している。自分は辰年生まれで妻は巳年生まれ。ご縁がありそうなので、よろしく。

続いて双日総研調査グループ長の山本大介様。「八十八年日商岩井入社、財務部勤務で海外駐在も経験。この度、総研に向向となり、全く新しい仕事で勉強に忙しい。ルーツである鈴木商店についてもよく研究してみたい」。

しばらく歓談の後、久しぶりにご出席された森島英一様から「佐世保重工の社長を六年勤め、今月末の株主総会で生え抜きの後任に社長



平成二十三年度
東京支部秋の例会御出席者名簿
(順不同・敬称略)

住田 正二	武岡 輝彦
熊本 昌弘	武岡 豊彦
土屋 武彦	大塚 融
池田 宗吉	宮本 英樹
荒木 正雄	松本 幸夫
森島 英一	神子 浩二
安東 浄	瀬下 猛
木村 隆昭	山本 大介
速水 きみ	荒木 義弘
森 美子	

意を新たにしました。

支部長の荒木正雄様から「今回は十八名という最近では最も多いご参加をいただき、ありがとうございます。今後ともご協力よろしく。今、日本は大震災のあとで、大変な時期。そこに台風による大雨の被害、また米国、欧州の財政危機がアジアの景気まで悪くしつつあり、一向に明るい話はないが、折角のこのお集まりの機会をお楽しみいただきたい」とご挨拶があり、続いて、幹事長の安東浄様が十月十八日の本部例会の報告として「高知県庁の産業振興に携わっておられる方が出席され、土佐の偉大な企業家として金子直吉翁の顕彰活動を一層活性化したい旨のお話があったこと、また『お家さん』の著者、玉岡様も同席され、鈴木商店の物語は今の人にアピールしているなどの話があった」と述べられました。池田宗吉様は「今回の大震災はあの終戦時の惨状を思い起こさせた。必ず日本は立ち直るのだから、前向きに明るく考えて行きましょう」と述べられた後、元氣いっぱいに乾杯とご発声になり、一同で唱和し会食となりました。

しばし歓談の後、初参加の双日株式会社広報部長の原田信二様からご挨拶がありました。「初めて広報の仕事をするようになって三か月。その間、いろいろ会社のことも勉強し鈴木商店時代のチャレンジと苦勞も知った。双日も二年後に十周年を迎える。全員で業績の向上に努めており、資源の開発や海外での工業団地の建設などにユニークな実績を上げている。非常に古くからのよき伝統と先輩方の活躍の歴史を会社内外に伝えて行きたい」。

JRの住田正二様のご出席で、話が規模改修中の東京駅について弾みました。来年秋に工事終了の予定とのこと。鈴木商店はその全盛期に東京駅中にあったステーションホテルの数部屋を年間借り切

を譲り会長に就任予定。少しは余裕もできるのでこの会にも出席したい」と話された。また、総研の山本様は現在の経済状況について、震災でずたずたとなった自動車部品などのサプライチェーンが予想以上に早く回復していること、これに個人消費の伸びが加われば景況の回復は早いのではないかとの見方を示された。神戸製鋼名誉顧問の熊本昌弘様は電力の十五%カットが製造業にとっては非常に厳しいこと、今後原発なしに十分な電力供給はできないので、原発の国有化も検討する必要があるなど説明された。最後に元NHK経済記者の大塚融様から、今も昭和恐慌の研究を続けておられ、近々吉川弘文館が発行する「人物資料事典」に永井幸太郎氏についてお書きになったことを披露された。

瞬く間に予定時間となり、十月の秋の例会での再会を楽しみに散会した。

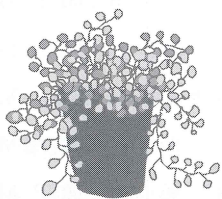
東京支部 秋の例会

平成二十三年十月二十三日(日曜日)
於 福臨門・丸ビル店

今年の夏は原発事故による電力不足のため節電を強いられ、暑さが一層厳しく感じられました。そんな長かった夏もいつしか終わり、秋の気配が心地よい十月二十日、秋の例会が開催されました。当日は皇后陛下美智子さまの喜寿の誕生日、開催場所が皇居近くの丸ビルの最上階の中華料理の店、そこからは吹上御所も望めるとあって、一同祝

り、幹部の方々の宿泊や得意先との商談、接待に利用していました。また辰巳会の新年例会は工事直前までそのホテルのダイニングルームで開催されるのが常でした。思い深い場所です。再び例会が持てる日もそう遠くはないようです。

時間は瞬く間に過ぎ、記念の写真撮ってもらい、閉会となりました。



平成二十三年度
東京支部秋の例会御出席者名簿
(順不同・敬称略)

住田 正二	森 美子
熊本 昌弘	武岡 輝彦
土屋 武彦	武岡 豊彦
池田 宗吉	松本 一郎
荒木 正雄	原田 信二
移川 京子	松本 幸夫
安東 浄	瀬下 猛
木村 隆昭	山本 大介
速水 きみ	荒木 義弘

物故者お知らせ

御芳名	死亡年月日	享年	鈴木商店との関係
長橋 忠男	平成23年7月26日	87	元日商岩井(株)社長 西川政一氏秘書